

## 大草谷津田いきものの里 自然観察会

### ウグイスのさえずりを聴こう

芳我 めぐみ (千葉市)

日 時：2012年3月4日(日)10時30分～12時 天候：曇り

参加者：13名（大人10名 子ども3名）

担当指導員：和仁道大・芳我めぐみ

観察会の前日、大草いきものの里の隣町の千城台ではウグイスの初音を聞いたと和仁さんからの知らせに期待が膨らむ。しかし当日の朝、空は曇天のうえ風が冷たい。いきものの里では初音が聴けるのか心配。この日の参加者は全員リピーターだったので、観察会のテーマ：鳥の「さえずり」について、早速和仁さんから説明する。「さえずり」とは繁殖のために雄が雌を呼ぶ行為、または他の雄に対する縄張り宣言である。特にウグイスの場合は最初に聞く鳴き声を「初音」と言って、春の訪れの合図とみなされてきたことなどを話した。「ホーホケキョ」と鳴けばウグイスの声とだれでも知っている鳥だが、姿をしっかり見ている人は少ない。そこで色の名前で使用するウグイス色はどれだと思うか？「日本の伝統色」から3色見せて質問をした。結果「鶯茶」3名、「鶯色」3名、「豌豆緑」3名と意見が分かれた。うぐいす餅やうぐいす豆の緑は、メジロ色だねとは参加者一同の認識でした。

観察会開始直前から、エナガがクヌギの梢でせわしなく動き回っていた。素早い動きも皆さんは双眼鏡で上手にとらえて、「可愛い！」の声。入口付近の土手でフキノトウを発見。おいしそう！ だけど採集禁止は、皆さんが周知している。目で春を味わって観察路へと進む。

めじろんばかり田んぼへの道の土手には、ムラサキケマンやジロボウエンゴサクがしっかり葉を展開しているが、だれも目をとめない。「初音」を聞きもらすまいと口数も少ない。残念ながら、「チャッチャッ」という笛鳴きは聞えたが「ホーホケキョ」はとうとう聞けなかった。街中より谷津田の気温は低いのであろう。気温が上がって虫が出てくる兆しがなければ、婚活もまだということなのだろうか。

前回の観察会に来られなかつたけど、わら巻きの中に虫はかくれんぼをしていたのか？と若いお父さんからの質問が出た。それではと、わら巻きをはずして観察した。ナミテンントウ、マルカメムシ、クモなどがいた。まだ冬籠り中のようだ。足元の枯草から成虫越冬のツチイナゴと蛾（名不明）を参加者が発見。もう少しの我慢だから寒さを乗り切って春を迎えてねと言いながら元の住処に放した。

千葉市の田んぼに新しいニホンアカガエルの卵塊が2個産み付けられていた。谷津田とアカガエルの関係を説明する。しかし今年の卵塊数は非常（異常に？）に少ない。この日までに12個しかない。これは単に気象条件が産卵に適していないだけなのか？それとも他に理由があるのか？とても気になっている。畦の内側を掘り下げて卵を産みやすくするなどして、産卵場所は確保したのだけどさ……もう少し待ちますか。

モズが高い梢で「キヨッキヨッ」となんの鳥かわからない妙な声で鳴いている。和仁さんが「モズは百の舌と書くのですから、いろいろな声を出すのですね」との説明に皆さんが納得する。練習中なのか、物まね名人の域には達していないようだ。最後にカシラダカが観察路でエサを啄ばんでいたので、皆でゆっくり観察できた。ウグイスのさえずりは聞けず残念だったが、モズの可笑しな鳴き声は心楽しくしてもらえた。

この他キジバト、コゲラ、ヒヨドリ、ツグミ、シジュウカラ、シロハラ（またはアカハラ）、メジロ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラスなど14種の野鳥を観察。